

ちよつとそこまで

# わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる  
古里の温もりに包まれながら  
あちらこちら、わがまち散歩

赤井・木崎・  
中尾・五楽 編

道端にはホトケノザ、イヌノフグリが顔を出し、どこからともなく、ヒバリの鳴く声が聞こえてきます。  
すっかりと暖かい陽気に包まれた春の日、赤井地区をぶらりと散歩しました。



赤井橋から東側に見える林。戦国末期に赤井城がありました

## 赤井城跡と 流れる湧き水

赤井川に架かる赤井橋のたもとに立つと、左岸にこんもりと茂った林が見えます。ここはかつて赤井城があった場所です。戦国末期に木山城主の木山惟久が築城したとされています。城があった小丘陵は赤井火山の噴出物からなるもので、天正13(1585)年に、ここを木山城と誤認した薩摩軍によって落城したと伝わります。  
さて赤井地区には、人々の生活を支



赤井水源の脇にある「赤井の観音堂」。鎌倉時代の福田寺の里寺で、江戸時代以降は観音堂となった歴史が残ります

えてきた用水路が各地区を貫く沿道に流れています。赤井水源に湧く水もその一つ。水深が浅く、夏は子どもたちの遊び場にもなっています。ここで洗濯をしていた、坂井弘美さん(80)に出会いました。

「湧き水だけ、夏は冷たくて冬はぬっかあ」と笑顔を見せる坂井さんは板金業を営んでいます。お住まいは宮園ですが、仕事場が木崎地区にあるそうです。そんな坂井さんの親しみやすい笑顔が誰かに似ていると思いきや、お笑い芸人の間寛平さんがすぐに浮かびました。

「寛平ちゃんにテレビの取材で声かけてもろて、お互い顔が似てると笑いかってね。『お兄ちゃん』と呼ばれたよ」と坂井さんは言って、「ここがいいの」と、寛平さんのポーズをものまねしてくれました。そっくり。



赤井水源で洗濯をしていた坂井さん。間寛平さんのものまねをしてくれました

## 亡き夫が愛した庭で

赤井地区で、隅々まで手入れが行き届いた庭のあるお宅を見つけました。吉村典子さん(86)と、長女の村田由美さん(61)が笑顔で迎えてくれました。

庭の池の水面には、ウメの品種「サクラガリ」の花びらが浮かんでいます。「私はウメだけど、サクラのように美しく、誰よりも先駆けて咲くのよ」とささやくかのように、小さな花筏をつくっていました。

「1年半前に亡くなった主人が、愛してやまなかった風景です」と典子さんは言いつて庭を案内してくれました。池には、美しいニシキゴイが何匹も気持ち良さそうに泳いでいます。「このコイた



ウメ科の植物の「サクラガリ」